



令和2年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

令和元年11月13日

上場会社名 パルステック工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6894 URL <https://www.pulstec.co.jp>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)鈴木 幸博
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理部長 (氏名)工藤 孝史 (TEL)053-522-5176
 四半期報告書提出予定日 令和元年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和2年3月期第2四半期の連結業績(平成31年4月1日～令和元年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2年3月期第2四半期	931	△11.8	109	△33.1	112	△37.0	71	△40.9
31年3月期第2四半期	1,056	14.4	163	113.7	178	124.5	120	143.0

(注) 包括利益 2年3月期第2四半期 68百万円(△45.6%) 31年3月期第2四半期 125百万円(115.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2年3月期第2四半期	51.91	—
31年3月期第2四半期	87.80	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2年3月期第2四半期	3,753	2,766	73.7
31年3月期	4,167	2,904	69.7

(参考) 自己資本 2年3月期第2四半期 2,766百万円 31年3月期 2,904百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
31年3月期	—	0.00	—	150.00	150.00
2年3月期	—	0.00	—	—	—
2年3月期(予想)	—	—	—	75.00	75.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

31年3月期期末配当金の内訳 普通配当 110円00銭 記念配当 40円00銭

3. 令和2年3月期の連結業績予想(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	2,400	△8.0	400	△16.5	412	△19.4	317	△29.8
								232.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社 (社名) 除外 — 社 (社名)

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 有
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2年3月期2Q	1,393,459株	31年3月期	1,393,459株
② 期末自己株式数	2年3月期2Q	24,876株	31年3月期	24,876株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2年3月期2Q	1,368,583株	31年3月期2Q	1,368,682株

- ※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信[添付資料]3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
3. その他	9
生産、受注及び販売の状況	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益、雇用環境、個人消費など、いずれも回復基調で推移いたしました。海外におきましては、米中貿易摩擦の激化、英国のEU離脱問題、中東地域における地政学的リスクの高まりなど、世界経済に悪影響を及ぼす課題が山積しており、先行き不透明な状況で推移いたしました。

当業界におきましては、輸送機器関連や特殊機器関連の設備投資は好調に推移し、ヘルスケア関連製品につきましてもリピート受注や新規案件の引合いが増加するなど、総じて良好な受注環境で推移いたしました。

このような状況のなかで当社グループは、前期に引続き販売力の強化、優良顧客の獲得、受注の確保、市場の開拓などに重点を置き、積極的な営業活動を展開するとともに、原価低減にも注力いたしました。

なお、当社グループは単一セグメントであるためセグメント別の記載を省略しておりますが、主要な製品別売上高の状況につきましては、次のとおりであります。

ポータブル型X線残留応力測定装置につきましては、国内外の展示会、学会、内覧会等への出展、装置のレンタルや計測サービスの提案、戦略的な装置の貸出しに加え、新製品の『非接触硬さムラスキャナ（muraR＝ムラール）』（鋼材表面の硬さのムラを非接触・非破壊で検出できる世界初のスキャナ）を市場投入するなど積極的な販促活動を行いました。導入検討に時間を要する案件が多く、受注や納入時期の先送りによる影響等により、売上高は2億95百万円（前年同期比14.8%減）となりました。

ヘルスケア関連につきましては、遺伝子検査装置の受託開発やリピート受注に加え、新たな受託開発・試作・量産等の引合いも大幅に増加いたしました。納入時期が下期以降となる案件が多く、売上高は1億47百万円（前年同期比3.4%減）となりました。

光応用装置及び特殊機器・装置関連につきましては、専用検査装置のリピート受注が本格化したことにより好調に推移いたしました。光ディスク関連が低調であったことから、売上高は4億88百万円（前年同期比12.2%減）となりました。

以上の結果、受注高は15億44百万円（前年同期比1.8%減）、売上高は9億31百万円（前年同期比11.8%減）となりました。

損益面につきましては、営業利益は1億9百万円（前年同期比33.1%減）、経常利益は1億12百万円（前年同期比37.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は71百万円（前年同期比40.9%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べて4億14百万円減少し、37億53百万円となりました。これは主に、仕掛品が3億56百万円増加し、現金及び預金が4億35百万円、受取手形及び売掛金が2億84百万円それぞれ減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末と比べて2億76百万円減少し、9億86百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が93百万円、未払法人税等が78百万円、賞与引当金が45百万円それぞれ減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比べて1億37百万円減少し、27億66百万円となりました。これは主に、利益剰余金が1億34百万円減少したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末と比べて4億35百万円減少し、8億94百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況につきましては、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、2億1百万円となりました。

主な増加要因は、売上債権の減少2億86百万円、税金等調整前四半期純利益の計上1億21百万円であり、主な減少要因は、たな卸資産の増加3億18百万円、仕入債務の減少94百万円及び法人税等の支払額83百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、20百万円となりました。

主な増加要因は、投資有価証券の売却による収入35百万円であり、主な減少要因は、有形固定資産の取得による支出47百万円、無形固定資産の取得による支出10百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、2億8百万円となりました。

主な減少要因は、配当金の支払額2億3百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和2年3月期の連結業績予想につきましては、本日公表いたしました「令和2年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成31年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和元年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,329,855	894,597
受取手形及び売掛金	1,078,043	793,681
仕掛品	279,200	635,897
原材料及び貯蔵品	183,577	144,991
その他	16,753	43,545
流動資産合計	2,887,431	2,512,713
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	264,407	254,925
その他(純額)	356,198	359,975
有形固定資産合計	620,605	614,901
無形固定資産	956	33,287
投資その他の資産		
投資その他の資産	672,818	604,649
貸倒引当金	△14,700	△12,500
投資その他の資産合計	658,118	592,149
固定資産合計	1,279,679	1,240,337
資産合計	4,167,110	3,753,051
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	347,681	253,819
1年内返済予定の長期借入金	10,320	10,320
未払法人税等	93,959	15,875
賞与引当金	135,663	90,659
その他	198,463	132,861
流動負債合計	786,088	503,535
固定負債		
長期借入金	55,340	50,180
退職給付に係る負債	421,476	432,363
固定負債合計	476,816	482,543
負債合計	1,262,905	986,078
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,491,375	1,491,375
資本剰余金	929,795	929,795
利益剰余金	635,369	501,119
自己株式	△165,878	△165,878
株主資本合計	2,890,662	2,756,412
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13,604	12,106
為替換算調整勘定	△61	△1,546
その他の包括利益累計額合計	13,542	10,560
純資産合計	2,904,205	2,766,972
負債純資産合計	4,167,110	3,753,051

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年9月30日)
売上高	1,056,194	931,699
売上原価	533,897	449,737
売上総利益	522,297	481,962
販売費及び一般管理費	358,739	372,527
営業利益	163,558	109,434
営業外収益		
受取利息及び配当金	995	2,270
為替差益	9,781	-
売電収入	7,125	7,008
貸倒引当金戻入額	-	2,200
その他	2,192	1,143
営業外収益合計	20,094	12,622
営業外費用		
支払利息	443	381
売電費用	4,741	4,329
為替差損	-	4,905
営業外費用合計	5,185	9,616
経常利益	178,468	112,440
特別利益		
有形固定資産売却益	-	799
投資有価証券売却益	-	8,340
特別利益合計	-	9,139
特別損失		
固定資産除却損	106	26
特別損失合計	106	26
税金等調整前四半期純利益	178,361	121,554
法人税等	58,188	50,516
四半期純利益	120,172	71,037
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	120,172	71,037

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年9月30日)
四半期純利益	120,172	71,037
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,152	△1,498
為替換算調整勘定	3,713	△1,484
その他の包括利益合計	4,865	△2,982
四半期包括利益	125,038	68,054
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	125,038	68,054
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	178,361	121,554
減価償却費	34,101	34,773
貸倒引当金の増減額(△は減少)	-	△2,200
受取利息及び受取配当金	△995	△2,270
支払利息	443	381
為替差損益(△は益)	△10,234	5,113
有形固定資産売却損益(△は益)	-	△799
投資有価証券売却損益(△は益)	-	△8,340
有形固定資産除却損	106	26
売上債権の増減額(△は増加)	130,292	286,536
たな卸資産の増減額(△は増加)	△74,747	△318,169
仕入債務の増減額(△は減少)	△109,782	△94,353
賞与引当金の増減額(△は減少)	13,934	△44,975
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	4,683	10,886
その他	△19,551	△107,478
小計	146,611	△119,315
利息及び配当金の受取額	951	2,235
利息の支払額	△441	△379
法人税等の支払額	△9,210	△83,866
営業活動によるキャッシュ・フロー	137,910	△201,326
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△12,289	△47,120
有形固定資産の売却による収入	-	800
無形固定資産の取得による支出	-	△10,250
投資有価証券の売却による収入	-	35,630
その他	98	99
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,191	△20,841
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△5,160	△5,160
自己株式の取得による支出	△127	-
配当金の支払額	△41,060	△203,325
財務活動によるキャッシュ・フロー	△46,348	△208,485
現金及び現金同等物に係る換算差額	11,993	△4,605
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	91,364	△435,257
現金及び現金同等物の期首残高	971,163	1,329,855
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,062,528	894,597

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日。以下「収益認識会計基準」という。)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)が平成30年4月1日以後開始する連結会計年度の期首から適用可能となったことに伴い、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、輸出版売の一部に関して、従来は船積基準により収益を認識しておりましたが、財又はサービスを顧客に移転し当該履行義務が充足された一時点で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、当第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、次の①から③の処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

- ① 履行義務の充足分及び未充足分の区分
- ② 取引価格の算定
- ③ 履行義務の充足分及び未充足分への取引価格の配分

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高、売上原価、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。また、利益剰余金の当期首残高に影響はありません。

3. その他

生産、受注及び販売の状況

(1) 生産実績

当第2四半期連結累計期間における生産実績は、次のとおりであります。

生産高 (千円)	前年同期比 (%)
1,720,201	135.7

(注) 生産高は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当第2四半期連結累計期間における受注実績は、次のとおりであります。

受注高 (千円)	前年同期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同期比 (%)
1,544,974	98.2	1,920,730	146.2

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第2四半期連結累計期間における販売実績は、次のとおりであります。

販売高 (千円)	前年同期比 (%)
931,699	88.2

(注) 1. 主な相手先別販売実績及び総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

なお、総販売実績に対する当該割合が100分の10未満である販売実績につきましては、記載を省略しております。

相手先	前第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 平成31年4月1日 至 令和元年9月30日)	
	販売高 (千円)	割合 (%)	販売高 (千円)	割合 (%)
株式会社小坂研究所	135,979	12.9	127,892	13.7
株式会社日立ハイテクノロジーズ	—	—	111,769	12.0

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。